



平成 24 年度 JICA アフガニスタン青年研修・地方行政コース

JICA Training Program for Young Leaders of the Islamic Republic of Afghanistan / Local Governance Course



(研修最終日 JICA 関西にて)

研修期間:平成 24 年 11 月 29 日～12 月 12 日(2 週間)

研修場所:神戸市、姫路市

研修内容:主に神戸市における地域住民参加型の地方自治行政の取組みを学ぶ講義/視察

参加研修員:地方自治の推進や、住民と中央・地方政府との間で調整等を行う青年行政官 20 名

当財団では、JICA(国際協力機構)からの委託を受け、「アフガニスタン青年研修・地方行政コース」を実施しました。2014 年末に予定されている、NATO が主導する国際治安支援部隊 (ISAF)からアフガニスタン政府への治安権限移譲にむけて、現在は難民として国外で暮らしているアフガニスタン人の帰還が増加すると言われており、一日も早いアフガニスタン政府自らによる統治体制づくりが求められています。今回の研修では、地方自治の推進や政府と住民との連携を担当している青年行政官 20 名をアフガニスタンから研修員として神戸に迎え、14 日間の研修を行いました。

アフガニスタンの復興に役立てていただくため、様々な講義や視察を主に神戸市内で行いました。日本の政治・行政についての講義、神戸の住民組織である防災福祉コミュニティ(以下、防コミ)についての講義・視察、歴史遺産¹の修復・保全について学ぶための姫路城修復現場の視察、有機農業²についての講義・視察、地域住民とのコミュニケーション方法についての講義など、研修内容は多岐にわたりました。半月足らずの短い研修期間でより多くのことを学ぼうと、研修員たちは講義中に積極的に講師に質問し、休み時間でも研修員間で議論をしていました。

また、研修中には、日本をより知っていただくため、公益財団法人兵庫県国際交流協会から紹介いただいた一般のお宅を訪問させていただきました。日本ばかりか海外に行くことが初めてという研修員もいましたが、日本料理が並んだ食卓を囲んで日本人との交流を深めました。



～ 研修を振り返って ～

研修員は、まず神戸大学大学院教授の松並先生による講義で、日本の政治制度と地方自治について学びました。現在の日本の制度についてご説明いただく中で、急速な地方分権がもたらす地域間格差拡大などの弊害についてもお話いただきました。中央政府から地方政府へ権限移譲する過程にたずさわっている研修員たちは積極的に質問をしていました。また、住民への行政サービスの現場をみていただくために、長田区役所を視察しました。

(日本の税制度について学ぶ研修員)

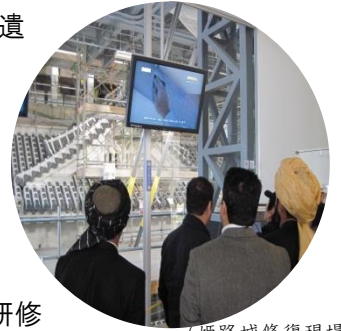


¹ アフガニスタンには、パーミヤン渓谷の遺跡をはじめとする多くの古代遺跡があります。

² アフガニスタンは農業国であり、国民の 8 割以上が農業に従事し、収入を得ています。

区役所職員より説明を受けた研修員たちは、多くのサービスを区役所で受けられることに驚いていました。

アフガニスタンといえばバーミヤン渓谷の遺跡が有名ですが、他にも古代遺跡が多く存在しています。そこで、本研修では現在修復作業が行われている姫路城の視察を組み入れました。修復現場も観光資源とすることや、詳しい説明をして案内して下さる観光ボランティアの方に感心していました。アフガニスタンが平和な復興を成し遂げ、古代遺跡の修復が一日も早く実現されることを願います。



(姫路城修復現場視察)

また、これから住民とともに国の復興に取り組んでいかなければいけない研修員のために、本研修での主要課題として、住民との協働についてのプログラムを2つ用意

しました。1つ目は神戸市独自の組織である防コミについての講義と視察です。消防局の方に防コミについて設立の経緯や法的枠組み、神戸市が行なっている支援体制について説明いただきました。平常時から活動を行い、住民たちが自分のコミュニティについて把握することで、非常時の緊急対応がスムーズに行われることを学びました。また、長田区若松地区の防コミで普段から行われている活動の一つである餅つき大会に参加しました。餅つき大会を行うことで地域の方々が集まり、ついたお餅を参加できなかった高齢者のお宅に配ることで、地域の災害時要



(防コミ餅つき大会)

支援者について把握するという大会開催目的をうかがいました。研修員は人生で初めての日本の餅つきに最初は戸惑っていましたが、女性も含めて全員が餅つきと地域の方々との交流を楽しみました。

2つ目のプログラムは、住民との協働を進める中で、住民の意見を聞く方法についての講義です。研修員たちは、住民の要望を政府に伝えるという地方議員としての役割を担っている方がほとんどです。しかし、彼ら・彼女らは住民から本当の要望を聞き出すことの難しさを感じ、その役割を十分に果たせていないのではないかという疑念を持っていました。途上国で農村開発支援を長年されてきたNPO法人ソムニード代表理事である中田氏による講義は、研修員にとって大きな助けとなったようです。支援をする側と受ける側には、どうしても上下関係が存在し、それが住民から要望を聞き取る作業にも影響してきます。援助者としてどのような質問から入り、どのように対話を進めていけば住民側の本当の要望を聞き出せるかについて、講師自身の経験を踏まえて丁寧に教えてくださいました。講義の後、研修員たちは自分たちの今までの活動がなぜうまくいっていなかったかについて理解したようでした。早く自分の担当地域に戻り、教わった質問方法をすぐにでも試したいという研修員の生き生きとした表情を見て、本当にこの研修を担当させていただいたことを嬉しく思いました。

今も爆弾テロがあり、治安の安定には時間がかかるとされるアフガニスタンではありますが、今回学んだことを生かして彼ら・彼女らが活躍し、平和で緑が美しいかつてのアフガニスタンを取り戻してくれることを期待しています。

研修担当：山田 かおり

委託元機関：独立行政法人国際協力機構(JICA)関西国際センター

講義/視察先：神戸大学

神戸市長田区役所/神戸市消防局/若松地区ふれあいのまちづくり協議会
公益財団法人PHD協会/NPO法人ソムニード
姫路城/舞子プロムナード/ホームビジット各家庭/渋谷農園/
人と防災未来センター

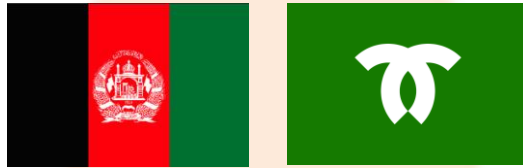




～研修員の声『神戸を訪れて（要約）』～ Participant's Voice 『VISIT TO KOBE』
研修中のお二人に、神戸の印象について尋ねてみました。

神戸市の第一印象は「とっても素晴らしい街」、です。具体的には、神戸市は海に面しており、六甲山という美しい山もすぐ近くにあります。自然の景観が素晴らしいです。また、高層ビルが林立する発展した都市で、高速道路やモノレールの高架が非常に都会的です。北野にあるモスクにも行き、神戸市内にお住いのイスラム教徒の方々とお話しすることもできました。

一方で、神戸のみなさんのおもてなしの心の温かさにふれました。お店の店員さん、道をお尋ねした方や、タクシーの運転手の方、視察先で出会った一般市民の方々は、みなさんとても親切でした。英語がわからなくても、英語をわかる人を探して連れてきてくださったり、親切に道案内いただいたり、私と一緒に写真をとってくださったり、みなさんのホスピタリティの素晴らしさを感じました（談）。



神戸市の印象は、まずは高層ビルです。ビルの高さや多さには驚きました。そして、電気がどこにでもあるということ。アフガニスタンでは、夜になると外は真っ暗。それに、女性は午後4時以降に街を出歩くことはできないから、夕方になって女性が普通に街にいる風景は新鮮でした。夕方見かけた女性の中にはジョギングまでしている女性がいたんです！

それ以外で印象深いのは、日本の結婚式でした。ホテルの近くで鐘がなったので、何があったかと見てみると、新郎新婦が教会の前で招待客の人たちに囲まれていました。その人数の少なさにびっくりしました。アフガニスタンでは、結婚式には最低でも1,000人は招きます。招待客が少ないことは、よい意味を持たないので、何となくでも探してきます。日本では100人ぐらいが平均と聞いて驚きます。日本とのアフガニスタンの違いを改めて知った瞬間でした（談）。

